

うちの畑の現在・過去・未来

双葉会診療所
片倉 和彦

リポーターの恋塚楽鷹です。急に寒くなってきた10月末に、カタクーラさんの畑をまわりながらインタビューをしました。こんな話でした。

- * 例年通り8月末に蒔いた大根の種は発芽しなかったし虫にすぐ食われた。
- * この夏は朝7時15分には暑くて草取りもろくにできなかった。
- * それでも草取りしてるときにはな〜んにも考えていないからいいね。
- * 相変わらず猿だらけ。ほれ、電気柵があるのにさつまいもが引っこ抜かれて齧られている。
- * 畑ってひまで忙しいから私のような発達凸凹注意欠如の人間に向いてるかも。
- * 私と畑、それは23年前に下の息子が学校から持ち帰ってきたチャボの卵から。
- * 今でも凸凹なことをやっているけど、やっぱり芽が出るのは楽しいね。

診療所の前の小さなスペースで

——2種類の葉っぱが伸びて茂っていますね。

つるむらさきと空芯菜が今でも盛んに茎をのばしていて、でも、霜が来るまでだけどね。今年はとにかく暑かったから、水がそんなに関係なくて虫に強いこの二つは元気だった。逆に、水が必要な里芋はだめだったね。近所のトウモロコシは猿にやられていたし。

——その向こうの草の茂みに見える赤いものは

今でもトマトが少しづつとれてて。去年実のまま乾かしておいた中玉トマトをその

診療所前



まま家の前に植えたら時間はかかったけどそのまま10本くらいの茎が出てきて、それを1本ずつ分けて植えて、で、普通は支柱をたてて脇芽をとっていっぺんにたくさんとるようにするんだけど、今年はおじゃもじゃのままにしておいたら、たくさんではないけどずっと取れていて。しかも、猿が取りに来ていない。

——こんなところにも猿が来るんですか

去年は3頭の猿が収穫直前のかぼちゃを両手に抱えて全部持って行ってしまった。ちなみに、一昨年の冬は、夜、帰りに音がして横を見るとカモシカがのらぼう菜をここで食べていた。

日帰り農園2号畑にて

——茂っているのはさつまいもですね

さつまいもはまあまあ調子がいいので、大根がダメなぶん、畑の収穫体験に来た人



ご存じですか？「クラインガルテン」という言葉



たちに楽しんでもらおうと。ほんとはもっと整理してつる返しをしておいた方がいいのだけれども。きれいにしすぎると、収穫体験の11月16日までに霜でツルが枯れてしまいやすいか、とも思っていて。収穫に来た子どもたちが、この迷路のようなさつまいものつるを追っかけていてね。

——この畑の大きさは？どうやって借りているのですか

100平米、奥多摩ふれあい農園から年10万円で借りている。ここ以外の畑は個人的に借りていて、その場合は農地法の規定ゆえに非農家は貸借が難しいので無料で借りています。

——あそこの家と畑が並んでいるところは

あれは奥多摩ふれあい農園の別荘付き250平米の畑付きクラインガルテンで、一年60万円で貸し出している。ときどき空きが出るので、恋塚さんももしよかったら申し込んでみるといいよ。

海沢（うなざわ）畑にて

——畑は広いけど、なんかまばらですね。

夏の収穫体験の頃のじゃがいもはまあまあ良く取れて、その掘り残しのじゃがいもが芽を出していて、それはそれなりに伸びているんだけど、肝腎の大根の芽が出なかったり、出ても虫がかじったりで大根はまともに出てきていない。残念ながらこの畑は11月16日の畑体験には使えないかな。石のほとんどないいい土なんだけど。

——不調ですね

暑さと熊情報と。こんな木立のなかでも朝7時半にはもう暑くて、しかもLineの熊アプリを見ながらだから、早朝に畑に行くのもぐずぐずしてしまっていて。それでも、夏の間草ぼうぼうとなっていたのを刈って隣の山梨県小菅村の村営堆肥「畑の素」を入れて、隣の埼玉県飯能市の野口種苗の固定種の大根の種を例年より1週遅くタネをまいたのだけれども、うまく育たなかった。

海沢(うなざわ)畑



登計（とけ）畑にて

——ここは大根ができていますね

小さいけどね。でも、ほれ、あそこのところは、猿が電気柵の中に侵入してさつまいもの茎を引っ張ってさつまいもを食べ散らかしている。

——ここも雑草が多いですね

うん、まあ。20年前に町の農産物品評会でじゃがいもで特賞をとったときには近所に住んでいる町議会議長さんが「よくあんな草だらけの畑でじゃがいもがとれるものだ」と評されていた。

——畑はそのころから？

そこの家をお借りして住んでいたとき、今から23年前に下の息子が学校からチャボの卵を持ってきたのがはじまりで、リンゴの種をリンゴの木にしたり、というふうに育てるのが好きな妻が、卵を孵してみようと取り組んで、チャボのひなが生まれて、それを育てて小学校に持って行って、それで近くの施設東京多摩学園の烏骨鶏の有精

卵も孵して、でも3羽のうち2羽は外でさらわれて、残った一羽の名前がトンと言って、それは人中で育ったから人に対して乱暴な鳥だったのだけれども、土をほじくり返して出てきたミミズをやるととても喜んで食べるので、上の大家さんの土地のところを掘り返しているうちに畑みたいになってきて、それで、生まれ

登記(とけ)畑



で初めて畑をやってみよう
と思って、でも、最初のう
ちは、たとえばトマトを育
てていたのに雑草化してい
たキバナコスモスの芽を残
してトマトの芽をとってし
まったりして、山の中で育
った妻を呆れさせての失敗
を重ねながら、でも、読ん
でいた雑誌が別冊宝島競馬
特集から月刊現代農業に変
わっていき、刈り払い機や、ミニ耕耘機も
使うようになって今に至っています。

——畑へのこだわりは何かあるのですか？

とくにないです。まあ、除草剤は使うわ
けがないし、ホームセンターの農薬売り場
の近くを通っただけで涙が出て鼻が詰まる
ので、農薬も無理だと思っていて、だから、
化学肥料は使うけれども、それ以外は、小
菅村で作っている「畑の素」とか「源流き
らり」(納豆などで作る発酵液・・・一般的に
は「えひめAI」)などは続けています。教
科書的には、種イモは買ったものを、とか、
じゃがいもの連作もよくない、とか、トマ
トの花の向きをそろえよ、などとありますが、
そこらへんはてきとーです。

——畑で気持ち良いことってどういうとき
ですか

畑で草を取っているときはなんにも考え
ていないです。それがいいです。また、畑
ってひまなんだけど忙しくて、準備する、
芽が出る、できてくる、虫がくる、猿がく

る、などと、多動な人に合っているように
も思います。早春の雑草もなんにもはえて
いない畑はきれいです。

(かたくら・かずひこ＝奥多摩町)

